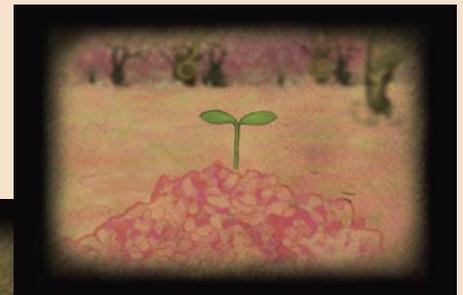




広島国際学院
創立83年



2Dアニメーション「アリビト」
情報デザイン学科 第3期生
(平成22年3月卒業)
岡本 健(尾道高校出身)制作



装い新たに「立町」から「袋町」へ

特集 国際交流	2-3
最新の技術、学外へ発信	工学部 4
学内外の才能が輝く夏	情報デザイン学部 5
現場に学ぶ社会の諸相	現代社会学部 6
挑戦と体験を力に前進	短期大学部 7
高校から発信	8-9
短大OB、ダカールラリーでダブル優勝	10
教員免許状更新講習	10
本年度初の薬物乱用防止教室	11
第22回学外展「Taste ～味～」	11
「袋町キャンパス」を開設	12
今後の主な行事予定	12

広 報

第83号

平成22年10月1日発行

URL <http://www.hkg.ac.jp/>
※大学ブログも公開中。あわせてご覧下さい。

ボリビアの教育プロジェクト評価

—教員向けに学級経営法と授業研究の研修、大きな成果あげる—



ボリビアの小学校で授業観察

本年2月16日から3月22日まで、本大学の石坂広樹准教授（地域連携センター）が、独立行政法人国際協力機構（JICA）の専門家として、南米のボリビア多民族国（以下「ボリビア」）に派遣されました。今回の派遣では、JICAが現地で2003年から実施している教育プロジェクトを評価する業務を担当しました。

ボリビアは、中南米に位置する人口約986万人の山国であり、スペイン語を公用語としつつも多民族で構成される言語・文化の大変に豊かな国です。首都ラパス（憲法上の首都はスクレ）は、標高約3,650mであり、世界で最も高いところにある首都です。ボリビアは隣国ペルーとともにインカ文明の中心地であったことから、今でも民族衣装をまとった国民の姿

を数多く見かけます。

他方、ボリビアは自然資源の豊かな国としても有名であり、天然ガス、スズ、鉛、石油などを産出している他、電気自動車の未来を決する電池原料リチウムの埋蔵量が推定20億トンと言われ、世界一であることでも有名です。ボリビアで産出されるリチウムの多くは、首都ラパスよりはるか南方に位置するウユニ塩湖と呼ばれる巨大な湖（標高約3,700m、南北約100km、東西約250km、面積約12,000km²）に埋まっているとされています。

さて、ボリビアの教育事情について触れたいと思います。ボリビアでは、小学校就学率がほぼ100%を達成しているものの、教科書などの教材が不足しており、教育の質の確保が大きな課題となっています。また、カリキュラムが未整備となっているため、授業を実施するための教材・内容を教員が自らの手で創らなければならないのが現状です。そこで、JICAのプロジェクトでは、これまで、全国の500校の小学校を対象に、授業をより効果的に実施するための学級経営方法や教育内容の向上を目指した授業研究の仕方に関する研修を現職教員に対して提供してきました。

今回、石坂准教授は、このプロジェクトの成果がどこまであがっているのかについて判断するため、教育省職員・教育委員会委員・学校長・教員など約40名に対しインタビューを実施するだけでなく、全国の約30校の小学校を訪問し、直接授業観察を行いました。

今回の調査によって、JICAが実施しているプロジェクトは、教育現場において大きな成果をあげており、ボリビアではこれまで実施されていなかった学級経営や授業研究がプロジェクト対象校において十分に定着していることが分かりました。今後は、教育省においてこのプロジェクトの成果をさらに全国に浸透させるための政策的努力が期待されています。

本大学は、今後もJICAなどを通じて教員の持つ技術を積極的に途上国で役立てるとともに、学生がこのような国際活動の現場を身近に感じられるような授業・活動を推進していきます。



先生方が作った教材の数々

国際交流公開講座

6月27日と7月4日に、国際交流公開講座が立町キャンパスにおいて開催されました。双方の講座とも40名程度の受講者にお集まりいただき、講座後には受講者から数多くの質問が講師に寄せられ、活発な議論が交わされました。

6月27日の講座には、地雷処理を行うNGO「日本地雷処理を支援する会(JMAS)」の大本俊志氏より、カンボジアでの活動を紹介いただきました。カンボジアでは今も、数多くの地雷が埋まったままであり、現地の人々の生活をおびやかしています。JMASでは、地雷処理によって生命の安全を確保するだけでなく、貧困に苦しむ現地の人々の生活向上を目指した町づくりプロジェクトを実施しています。



カンボジアの地雷処理および町づくり活動を紹介する大本氏



ジョン万次郎の生涯とその意義について語る中浜氏の講演

7月4日の講座には、ジョン万次郎のひ孫にあたる中浜慶和氏より、万次郎の生涯とその意義について講義いただきました。ジョン万次郎が奇跡的にアメリカの捕鯨船に助けられた後、船長の提案を受けアメリカに渡り教育を受けた様子、日本帰国後奇しくもペリー来日を受け歴史の表舞台に踊り出た様子などを写真や絵などを通じて紹介いただきました。万次郎が国際交流という舞台で活躍したのはあくまでも民間レベル・草の根活動が基本であったことが講座を通じて理解することができました。

今後も本大学では、国際交流・国際協力の活動に取り組む方々を講師に迎えた公開講座を開催していく予定です。

留学生交流会

留学生愛好会 部長

王 佳亮 (工学部2年・中国吉林省出身)

私たちは留学生愛好会です。留学生愛好会は2010年の4月に留学生たちが楽しく大学生活を送れるようにと作ったサークルです。本サークルは、入学したばかりの後輩たちがすぐに本大学の生活に慣れるための支援をすること、興味がある留学生たちが一緒に日本の文化を勉強することを目的としています。さらに学校のいろいろな活動に参加します。

昨年から行われている留学生交流会は留学生に対して行われる活動のうち、一番大きい留学生の活動の一つです。今年は7月6日に行われ、全校で167人の留学生のうち、80人程が参加しました。

今年の留学生交流会は学生課が主催し、留学生愛好会が協力して行いました。今回、私たちは頑張ってやりました。当日は鶴理事長、奥田学長のご挨拶の後、遠藤工学部長の音頭でみんなで乾杯をしました。それから、中国の留学生たちは一緒に中国の歌を歌い、ベトナムの留学生たちはベトナムの歌を歌いました。その後、日本人の学生たちが面白い日本のコントをし、参加者は非常に楽しんでいました。最後に全員でクイズをやりました。そのクイズは10問あり、一番正解の多かったグループは一人500円の商品券(学内食堂・売店用)をもらいました。二番目のグループは300円、それ以外の学生たちも100円の商品券をもらいました。楽しみのうちに今年の留学生交流会が終わりました。

来年も頑張ってやります。みなさん、次回もよろしくお願ひします。



ベトナムの歌を披露する留学生



大勢の留学生が参加し楽しんだ交流会

最新の技術、学外へ発信

ものづくり教育活動 着々と！

本学部が取り組んでいる“ものづくり教育活動”が着々と進んでいます。

学内には太陽光、風力を利用した発電装置を複数設置し、得られたエネルギーを利用したLED夜間照明および電気自動車の製作も進められています。

また、エネルギーに限らず農作物の栽培や調理実習を通じて、食に関わるものづくり活動も実践しています。バイオ・リサイクル専攻では、コスモ石油(株)から実用化され世界中で市販されている植物成長促進剤「ALA」と、新たに本学部で開発したバイオ肥料(光合成細菌バイオマス)による稲の成長促進と収量増加の実験を行うなど、我が国が抱える食糧自給等の大きな問題にも果敢に取り組んでいます。

さらに本学部のものづくり教育活動は、学内のみならず地域においても枠を広げています。8月12日に開催された「夏休みキミの自由研究応援します！」(主催：本大学地域連携センター、共催：中野公民館、瀬野公民館)では、大学近辺に在住の小学生を対象に、ペットボトルロケットや木材玩具の工作教室を通じてものづくり体験とその普及を行いました。また5月からは、「ものづくり高校生マイスター育成事業」(広島県教育委員会主催)の化学分析指導教員として本大学教員が高校に出向き、将来の環境分析技術者を育成するプロジェクトがスタートしました。



風力発電装置を設置する学生



電気自動車の製作にあたる学生



産学連携ですくすく育つ稲

我々の目指すゴールはまだまだ遠いですが、ものづくりの「技術」だけではなく、「精神」も伝えられるようになりたいと願うばかりです。



ペットボトルロケット発射
(夏休みキミの自由研究応援します！)



環境分析の技と心を高校生に伝授

「環境の日ひろしま大会」に出展しました

6月6日に広島県庁前広場で開催された「環境の日 ひろしま大会」(広島県主催)に、ブースとバイオ燃料車両を出展。本大学で実施しているキャンパスリサイクル活動(紙、機器リサイクル)に関するパネルと、内線電話として使用していたPHSからの貴金属回収に関する展示を行いました。

一般家庭とは異なり様々な技術を駆使されるリサイクル技術に、沢山の方々が興味を持ってブースに足を運んでくださいました。同時に見学記念として、本イベントの為に用意したオリジナルグッズを提供しました。



本大学ブース展示の模様

情報デザイン学部 ▶ 学内外の才能が輝く夏

第13回広島国際アニメーションフェスティバル エデュケーショナル・フィルム・マーケットに参加

広島国際アニメーションフェスティバル2010 エデュケーショナル・フィルム・マーケットに参加しました。

25周年を迎えた第13回広島国際アニメーションフェスティバルが8月7日から11日まで、アステールプラザで開催され、世界中から集まったたくさんアニメーションが連日上映されました。

エデュケーショナル・フィルム・マーケットはその中のプログラムの一つで、学校・学生・企業とを繋ぐマーケットです。アニメーション制作を行っている教育機関が出展し、学校や学生作品の紹介を行いました。本学科の学生もプロが制作したアニメーションや、アニメーション制作を志す他校の学生たちの作品を見てたくさん刺激を受けていました。



本学科展示ブース



一心に描く参加者

第6回デッサン教室開催

7月24日、立町キャンパスにおいて「第6回デッサン教室」を開催しました。今回は中学生1名、高校生4名、リピーターの方や70歳代の飛び入り参加1名も加え、幅広い年齢の広島市民21名の参加となりました。初心者から手慣れた方まで好みやレベルに合わせて、鉛筆デッサンか木炭デッサンかを選択し、石膏像や静物を2時間あまり熱心に制作、静かで充実した時間が経過しました。講評会では、参加者の情熱あふれる個性豊かな作品が並び、作品ごとのアドバイスの後、参加者全員で鑑賞しました。完成作品は定着液で定着させた後、各自大切に持ち帰っていただきました。

なつやすみプログラム

7月25日、なつやすみプログラムと題して、「ロボットカーを走らせよう！こどもプログラミング教室」と「体験！わくわくアニメーション」を立町キャンパスで開催しました。「わくわくアニメーション教室」は第13回広島国際アニメーションフェスティバルの協賛事業としても開催され、参加者にはこのフェスティバルの1日入場券と交換できる修了書が発行されました。「プログラム教室」に参加していた子ども達は、プログラム通りにロボットカーが動く歓声をあげていました。「アニメーション教室」に参加した子ども達は、完成した自分の作品を見て満足した様子でした。親子で参加された方々の多くの保護者が子どもより熱心に取り組んでおられました。



アニメーション教室のひとつ

「第6回 “ちいさな” 平和コンテスト」開催

被爆65周年を迎えた今年、「第6回“ちいさな”平和コンテスト—携帯電話で撮るあなたの平和のイメージ—」を開催しました。核兵器廃絶を目指す国際世論の高まりもあり、留学生を含む学生実行委員14名が集まりました。コンテストに関しましては、読売新聞、中国新聞にも紹介いただき、投稿案内を掲載いただきました。短期間ではありましたが、高校生、一般から、ほのぼのとした家族写真など、約100作品を投稿いただきました。



投稿作品「アヒルちゃん」

学生実行委員は交代で作品を印刷用に編集したり、遅くまで展示用パネルを作成したり、暑い中、展示場設営に汗を流したりしました。作品は7月26日から8月6日まで立町キャンパスにて展示され、作品を見に来られた方々から共感が得られる作品を投票いただきました。

投票結果を参考に情報デザイン賞ほか各賞合計10作品を選出。9月中旬にホームページ <http://heiwa.id.hkg.ac.jp/>にて発表、賞品をお贈りしました。

現場に学ぶ社会の諸相

現代社会学部



国松浩司さんによる講義（6月9日）

おもしろ人生ゼミナール2010

「自分をいかし、人とつながり、地域に生きる」

本学部は、産業システムコース、国際コミュニケーションコース、福祉マネジメントコースという三つのコースを編成し、現代社会の様々な側面に興味を持ち、問題を発見し、それらを自分で調べ、考え、他者と力を合わせて解決に寄与できる人材の育成を目標としています。

大学教育にキャリア支援に関する期待がますます多く寄せられるようになってきていることを踏まえ、今年度、本学部では、地元広島で活躍しておられる方々をお迎えして活動内容をご紹介いただくとともに、ご自身のこれまでのキャリア、仕事やNPO活動を思い立たれた経緯、現在のやりがいとご苦労などについてお話を伺う連続講演会を実施しました。

6月2日には、(株)光友商企(平和園グループ)社長浜下博光さん、(株)乃き屋代表取締役楠隆緒さんが、飲食店を立ち上げ、会社を経営し、若い人たちを育てるといことについて講演されました。6月9日には、NPO法人「かべ工房村」理事長、宅老所・グループホーム全国ネットワーク世話人国松浩司さんより、地元自治会の方々、大学生との交流を含めた高齢者のデイサービス活動、「長井ぶらっとホーム縁が和」の活動について伺いました。6月23日はひろしまジン大学学長平尾順平さんが、海外支援活動を経て5月15日に開講したひろしまジン大学の活動について話され、6月30日には、NPO法人「ヒバゴンの知恵袋」の加藤寛子さんに、発見40周年を迎えるヒバゴンのキャラクター管理と西城町における様々なまちづくりの活動について講演いただきました。

学生は、介護やまちづくり、そして企業や社会的企業といった様々なテーマに関心を持つと同時に、講演者の生き方に触れることで、あらためて自分の人生を考えるきっかけ、仕事を選ぶ際のヒントを得ることができたようです。



平尾順平さんによる講義（6月23日）

課外学習で広島テレビを見学

3年 佐々木 詩織(広島国際学院高校出身)

去る6月23日に社会学演習1の迫先生のゼミで、課外学習に行ってきた。迫先生が出演されている広島テレビ放送(株)で、テレビ局の中を見学するという貴重な体験をさせていただきました。



広島テレビで記念撮影

見学する前は、テレビ局というのは広いスタジオで大勢の人がいるというイメージを持っていました。見学してみると、スタジオは意外にも狭く、人数も少なく1つのスタジオにカメラを動かしていくというシステムになっていました。調整室も見せてもらいましたが、ドラマで見るような機械ばかりでとても感動しました。秒単位で行われるため、少し緊迫したムードでした。

働いている人の中に、私たちと同世代の人がいてテキパキと働いていることにとても感動しました。私は学生で勉強していますが、テレビ局を見学したことにより、仕事の大変さ、楽しさなどが分かりました。就職活動を控える私たちにとって、とても貴重な体験ができたと思っています。

第2回 自短夏祭り

実行委員長 越智三千彦

8月1日、第2回自短夏祭りが開催されました。じりじりと太陽が照りつける炎天下、地域の小学生から大人まで300人超にご来場いただきました。

「もの作り教室」では、小学校低学年を対象に「空気を使ったおもちゃづくり」、高学年を対象にした「ペットボトル・ソーラーカーを作ろう」を開催。自動車工業科・専攻科学生と教員の指導のもと、オリジナル作品を手作りしました。完成した作品に子どもたちも大喜びでした。

熊野子ども和太鼓クラブやアンサンブルトリオCandy Boxの皆さんが演奏を披露。無料サービスのボン菓子の実演・冷やしそうめん&むすび・かき氷・ヨーヨーつりなど色々な出店もあり、来場者に楽しんでいただきました。

今年も大盛況だった「かよこバス試乗と撮影会」。通常は公道を走ることができないかよこバスが、この日は校内特設コースを走行とあって希望者が殺到しました。「デロリアン展示と撮影会」は、映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」にも登場した名車が環境に優しい電気自動車に変身。広島テレビの番組「旬感テレビ派ッ」の収録も行われました。



ペットボトルでソーラーカー作りに挑戦



トラブルにも負けず無事フィニッシュ

2010 FIA ASIA-PACIFIC RALLY選手権 第2戦 Rally Hokkaido

5月21～23日に北海道の帯広を中心として、FIA ASIA-PACIFIC RALLY選手権 第2戦 Rally Hokkaidoが開催されました。今回も栃木県のメープルスポーツラリーチームより参加の石川/菅野車(三菱ランサーエボリューションIX)のメカニックとして、専攻科2年生の大西将太郎君(松山聖陵高校出身)、野地浩太君(広島県立広島商業高校出身)、山沖竜也君(広島市立美鈴が丘高校出身)の3名が参加しました。

ラリー2日目にステアリングポストの脱落やタイヤバーストによる車速センサーの断線などトラブルが多発。午後の20分間のサービスで応急処置をしましたが、その後の走行でステアリングポストが再び脱落し走行不能の為、帯広のサービスパークに運んで修理し、スーパーラリーで翌日からの再スタートとなりました。

今年からスーパーラリーでの規定が変更となり、残念ながら完走とはなりませんでしたが、無事フィニッシュラインを通ることができて良かったと思います。

今回もこのような機会を与えていただいたメープルスポーツラリーチームの赤羽様をはじめ、チームの皆様へ厚くお礼申し上げます。

- メープルスポーツ <http://www.maplesport.com/>
- Rally Hokkaido <http://www.rally-hokkaido.com/>

体験入学

8月8日に体験入学を実施しました。参加した高校生は、①エンジン：乗用車エンジンの分解・組立、②シャシ：自動車足回りの分解・組立、③ミニバイク：ミニバイクの分解・組立・エンジン始動の3コースに分かれてそれぞれ作業要領の説明をうけた後、実際の分解・組立実習を行いました。

エンジンコースでは1人1台ずつのエンジンを受け持ち、シリンダヘッドやカムシャフト、ピストンなど主要な部品をほぼすべて分解して組立てました。シャシコースでは足回りの基本的構造の説明をうけた後、サスペンションのコイルスプリングの組み替えやブレーキドラムの脱着などを行いました。すべて実物を用いた実習作業なので、実際の構造を知る良い機会になり、高校生は全員真剣に作業をしていました。また、ミニバイクコースでは、エンジン部分の分解後、元通り組み立て、最後にエンジンを始動した時は言葉で表現できない喜びを体験したようです。

初めて使う工具や計測器に戸惑いも少しあったようですが、教員のていねいな指導のもと全員熱心に取り組み、心地よい疲労と達成感を同時に味わってもらうことができました。

この体験入学を通して、自動車のしくみに興味を深めてもらうことと、整備の楽しさを実感してもらうことができました。



整備の楽しさを実習で体験

石見智翠館高等学校との 学習交流会を終えて

練習試合は体育系クラブだけではない：新しい形の練習試合

石見智翠館高校(島根県)はラグビー部など全国大会常連クラブを抱え、県外からの生徒も少なくありません。平成15年に進学コースとして「智翠館特別コース」を設置。今や東大・京大など難関国立大合格者を輩出し、全国でも注目されています。このコースの特筆すべき点は、生徒の主体性を高めるイベントを実施する中で生徒の意識改革を実践し、それを進学実績へとつなげている点です。

本高校特進コースも創設18年目です。昨年度は広島大学に5名(現役)が合格し、少しずつ「特進」の名にふさわしく進化してはいますが、地域の中学生から選ばれるには更なる発展が不可欠です。先進校の取り組みから学び、「いかにして生徒の主体性に火をつけるか」という課題を持って学習交流会に参加しました。

今回は智翠館特別コースの改革を進めてこられた細木康弘先生のご協力を仰ぎ、現代文の交流授業を実施しました。参加する意義や他校の生徒から学ぶ姿勢の大切さを伝え、9名(男子4名・女子5名)が参加しました(智翠館からは東大、京大、医学部を目指す生徒7名が参加)。

いざ授業が始まると本高校の生徒たちも活発に意見を交わし、解答をどのように導くか真剣に議論していました。実際、本高校の生徒の答えは智翠館の生徒に劣らず、筆者の論理と問の条件に従って練り上げられたものになっていました。コツコツながらも授業を通じ取り組んできたことが実力につながっていると実感でき、生徒も教師も大きな収穫があったと言えます。その意味でも今回の交流会は非常に意義深いものでした。最終的には生徒自身の「やる気(主体性)」に火がつかねば進路実現はありえません。自分達より真摯に受験勉強に取り組む「仲間」がいることはいい刺激になるはず。今後もこうした取り組みを続けながら、生徒たちのネットワークを礎にした学習意欲を高める体制づくりを目指していききたいと思います。



グループ討議の様相

観客を魅了した「張っちゃ気体育祭」来年も来てみんなさい!

6月19日、朝方まで降り続いた雨も上がり、各クラブの協力を得てグラウンドを整備し体育祭が行なわれました。1年生男子の集団演技は良く訓練された機敏さに面白味を加え、見る者を魅了しました。今年度から取り入れられた学年対抗教職員リレーでは、先生が一生懸命走る姿に、生徒と教師が一体となった本高校教育の取組が垣間見えました。午前中最後の種目である2年生のフォークダンスでは男女が手をつなぎ、恥じらいよりも若いエネルギーに溢れていました。盆踊りは保護者に着付けを手伝ってもらい、一人ひとりオリジナルな浴衣で出場。東広島音頭や広島音頭などを披露しました。特に女子生徒の浴衣姿には日本の伝統美を感じ取ることができました。



伝統美の競演、盆踊り

今年は観客席を500席に増やして臨んだ体育祭ですが、多くの立ち見が出るなど毎年観客数が増えています。ある保護者から「私立の集団演技は公立とは違いますね、素晴らしいですね」と言われました。生徒と教師が共に一生懸命取り組んでいるからこそ、このようなお褒めの言葉をいただけたのではないかと思います。入場行進から最後の整理体操まで生徒達は気を抜くことなく演技し、今まで以上に素晴らしい体育祭でした。

来年は更に進化した演技をお見せしたいと思います。今回ご観覧いただけなかった方も、来年は是非足を運んでいただければ幸いです。

今もっとも熱い国際学院ゴルフ部

本高校ゴルフ部は創設29年目に入りました。部員数は現在20名と少数ながら、全国トップレベルの選手が在籍し、活気に満ちています。練習は既設の打撃練習場およびグラウンド東側に昨年度完成したグリーンで毎日行っています。しかし上級者が多いことと競技の特性から、瀬野川カントリークラブと東映カントリークラブの協力を得て週3回コース練習をしています。

本高校ゴルフ部のレベルは現在全国トップ10に位置し、県内の大会および中国地区でも2年連続で優勝しています。全国大会では昨年度6位に入賞しましたが、本年度は38校参加で10位に下がりました。

個人では普通科2年生の村山駿君(呉市立昭和中学校出身)が春の全国大会で3位入賞。7月の中国大会では22年前の倉本昌弘プロの記録を更新し、コースレコードの62ストローク10アンダーとすばらしい記録を打ち立てました。村山君はその後、日本ジュニア全国大会で初日・2日目とトップを走り、報道を騒がせましたが、最終日に小西健太君(世界チャンピオン)に敗れました。しかし広島県内の選手同士で最終日を迎えたのは大会史上初で、その意味でも注目を浴びました。8月23・24日に開催された県大会では逆に村山君が最終日に小西君を破り、堂々の優勝を手にしました。

また、主将で普通科3年生の久志岡俊海君(広島市立仁保中学校出身)は、昨年度全国大会の成績から日米ハワイ対抗戦に日本代表として選ばれ、昨年11月にはハワイに遠征。4月の日韓対抗戦でも日本を勝利に導く原動力として活躍しました。普通科2年生の長谷川祥平君(廿日市市立大野東中学校出身)も日本代表メンバーに選出されています。長谷川君は昨年、1年生の時に県総体優勝を果たしています。そして本年度は、いずれも普通科の3年生天野貴之君(海田町立海田中学校出身)、2年生久志岡亮君(広島市立仁保中学校出身)、1年生奥山良生君(武田中学校出身)を加えた6名が茨城県で開催された全国大会に出場しました。

なお、10月に行なわれる国体(千葉県)は3名の団体戦です。広島県からは久志岡俊海君、村山君、長谷川君の3名が代表に選出され、優勝が期待されています。



中国大会団体戦に優勝、全国へ

第22回定期演奏会を終えて

6月27日午後2時より、広島市文化交流会館において吹奏楽部第22回定期演奏会が開催されました。第1部はクラシックステージ、そして第2部は「今よみがえる80's」と題し80年代の魅力あふれる映画音楽やポップスを様々なパフォーマンスとともに披露し、観客を魅了しました。

第1部はいつもご指導いただいている小長谷宗一先生こながの曲『The Courage - 真の勇気とは -』で幕を開けました。OB・OGがマーチングパーカッションを担当し迫力の演奏。普通科3年本池秀君(広島市立宇品中学校出身)が作曲した『マーチ「船上の日々」』に続き、本日の目玉であるマーゴリス作曲『テレプシコーレ』が披露されました。

続く第2部では『アバ・ゴールド』のステージドリルに拍手喝采が沸き起こりました。ビリー・ジョエルの『ロンゲスト・タイム』をアカペラで楽しんだ後は『君の瞳に恋してる』のフルートソロ。『スリラー』はおなじみのパフォーマンスで会場を沸かせました。『J・POPメドレー』では「国際の松田聖子」「国際の中森明菜」が登場して踊りや歌を披露。『スティーヴィー・ワンダー メドレー』では名物タップダンスで魅せ、最後の『ディスコ・パーティー』は客席まで出て行くスタンドプレーで会場中がディスコに早変わりしました。



会場がディスコに? 迫力のスタンドプレー

今年も部員達の素晴らしい演奏や生き生きとした表情を見ていただくことができ、とてもうれしく思います。皆様のご支援でこの素晴らしいステージに生徒達を立たせることができました。ありがとうございました。

短大OB、ダカールラリーでダブル優勝



同僚と優勝の喜びを分かち合う中野さん（手前右）

広島日野自動車㈱に勤務する中野直也さん(平成5年3月卒)が、「ダカールラリー 2010」トラック部門にメカニックとして参戦。「排気量10リットル未満クラス」と「市販車クラス」の2部門で堂々の優勝を果たしました。

ダカールラリー 2010はアルゼンチンとチリの2ヶ国を經由。競技区間4,810km、17日間に及ぶ過酷なレースです。メカニックはキャンプ地で待機し、到着した競技車を点検・整備・清掃します。ドライバーが安心して乗れるよう確実を心掛け、相互確認を徹底したそうです。優勝の一報が入ったのは、ゴール地点のブエノスアイレスで後かたづけをしている最中でした。「ひと安心しました。レース中は何が起こるか分かりませんから」と中野さんは語りました。

た。

ラリーには全国の販社から選り抜かれた4名の熟練整備士が参加しました。中野さんはメンバー入りが決まった時、自分でよいのか？できるのか？と不安がまず頭をよぎったと言います。しかし研修を重ねるうち、やるしかない、やれると自信が湧いてきたそうです。

もともと機械いじりが好きで、広島電機大学附属高校(現広島国際学院高校)の自動車科から本短大に進学。実習でもものに触れる重要性を実感しました。また、大型車整備では同窓生が各社で活躍しており、相談し合うことでネットワークも築いています。

在学生に「やりたいことに積極的に取り組み、色々な経験をして欲しい。自信がつき、人間的な幅を広げることができます」とアドバイス。さらに「今回出場できたのも社からの推薦がスタート。これまでの経験や知識、技術など後輩にも伝えていきたい」と意欲を語りました。



一日の行程を終え、キャンプ地に着いた競技車を入念に整備

教員免許状更新講習 — 今年も高い評価 —

本大学では今年度も、教員免許状更新講習を8月5日から11日の日程で5日間にわたり開催しました。必修講習、選択講習とも定員を大きく上回る受講者を得て無事終了しました。

必修講習は昨年度同様、文部科学省から指定された項目に合わせて専門の講師を招聘し、それぞれの特色が発揮された講習を2日間にわたり開きました。選択講習は、本大学の柱となる電気・機械・情報デザイン・現代社会の各専門を活かした「技術・工業」「環境化学」「情報活用」「国際理解」にかかわる4つのコースを各3日間開催。講習終了後、認定作業を9月末まで行いました。

実施にあたっては昨年の経験を生かし企画・運営をした上、更なる反省・改善をめざして事後アンケート調査を行いました。その結果全ての講習・コースが高く評価され、前回同様「受講してよかった」「大学の配慮に感謝している」という声もたくさんいただきました。これも県内のみならず、遠くは兵庫県、島根県から受講された先生方の熱心な姿勢と講師・教職員のおかげと感謝しています。



選択講習の様

本年度初の薬物乱用防止教室

7月12日、本年度初の薬物乱用防止教室が鈴峯女子中等高等学校で行われました。約800名の生徒を前に、大学生薬物乱用防止認定講師の苗君(工学部2年・中国遼寧省出身)が講演を行いました。鈴峯女子中等高等学校から大学生講師に講演をお願いしたいとの要望が広島フェニックスライオンズクラブに寄せられ、このたび実現したものです。

ライオンズクラブメンバーで元アナウンサーの柏村武昭さんが司会を担当され、(財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター専門指導員(元厚生労働省麻薬取締官)神垣鎮さんがまとめの話をされるなど、広島フェニックスライオンズクラブが万全の支援体制を組んでくださいました。

苗君は何日も前から講演内容を整理しており、当日も立派に講師を務めました。苗君の他、本大学から松田英理佳さん(現代社会学部3年・広島県立大門高校出身)、岡川真和君(工学部1年・広島国際学院高校出身)、趙志強君(工学部1年・中国黒竜江省出身)、諸富真知さん(工学部1年・広島市立広島工業高校出身)も参加しました。1年の3名は初めてということもあり相当に緊張したようですが、全員が協力して良くやったとの評価をいただいております。

全国初の大学生薬物乱用防止教育認定講師の活動も2年目となり、新メンバー11名を加え21名体制で活動を行っています。



講師を務める苗君

第22回学外展 Taste ~味~

第43期学友会文化局 局長 そはら 曾原 大介(広島県立廿日市西高校出身)

7月10～11日の両日、本大学学友会文化局主催による第22回学外展「Taste～味～」を立町キャンパスで行いました。学外展は本大学の文化系サークルが日々の活動成果を市民や他大学の学生などに公開、交流を深めてもらう年間行事です。

今年は展示の部として「写真部」「電子計算機研修会」「表千家茶道部」「美術研究同好会」「ボランティア同好会」「競技麻雀愛好会」「留学生愛好会」の7サークルが、数多くの個性溢れる作品を展覧してくれました。また、11日のステージ発表の部では「Music Planning Agency(MPA)」「映画研究同好会 TOYBOX」「吹奏楽愛好会」「放送通信研究会(VOD)」の4サークルが、若々しく活気に満ちた演奏と舞台裏の準備等で活躍してくれました。

両日で来場して下さったお客様は190人を数えました。そのうち他大学からの来場者数が134名、一般来場者が56名でした。

今年初めて出展した「留学生愛好会」は、中国文化の紹介や中国風景の展示、中国語の紹介をしていました。今回の学外展は、来場者と留学生がコミュニケーションを図る学びの場になったのではないかと思います。

来年度も学外展を開催するにあたり、出展・演出発表するサークルが成長できる場となることを願っています。



広島国際学院大学
第22回 学外展

入場料0円

TIME
7/10 Sat
展示 10:00～15:00
7/11 Sun
ステージ 開場 12:30～
開演 13:00～

PLACE
広島国際学院大学
立町キャンパス
広島県広島市中区基町13番7号
広島朝日ビル 1F

ACCESS
市内電車
立町電停下車すぐ

広島国際学院大学学友会文化局
広島県立広島女子大学55中野4-20-1
5F 400号室
主催 広島国際学院大学学友会文化局
後援 広島国際学院大学学友会本部、広島国際学院大学学友会体育部
広島国際学院大学学友会執行委員会



「袋町キャンパス」を開設 —閉館の「立町」に代わり—

本大学『立町キャンパス』は、広島朝日ビル解体のため8月10日を以て幕を閉じ、これに代わるサテライトとして『袋町キャンパス』を開設しました。

朝日ビルと言えばかつて映画館があり、夏には屋上でビアガーデンも開くなど広島市民には良く知られ、こよなく愛されたビルディングです。立町キャンパスは平成15年9月、大学と地域を結ぶ拠点として立町電停前の広島朝日ビル1階にオープン。以来7年間、学生の卒業研究発表、ゼミナール、オリエンテーション等の学内行事の一部に利用されるほか、公開講座や講演会、絵画・写真・イラストなどの展示、演奏会なども行ってきました。近年では川島なお美さんや野村謙二郎さんなど著名人の講演会も開かれ、多くの皆様のご来場をいただきました。また平和への取り組みとして市民講座「ヒロシマの継承」を開講。

小・中学生を対象とした「ものづくり」体験教室には子ども達や保護者の皆様も多数来場され、楽しいひと時を過ごしていただくなど知名度は増しています。これらの講座やイベントを通し、立町キャンパスは本大学のサテライトとして広島が目抜き通りに根を張り、広く市民に親しまれ市民権を得たと確信しています。

広島市では私学のトップを切り市の中心街に設置し、大学の情報を地域に発信して多くの人々にご利用いただいたサテライトでしたが、この度広島朝日ビルが建物老朽化のため取り壊しが決まり、7年間続いた『立町キャンパス』での本大学の「広報」や「地域貢献」活動は、他に移すこととなりました。

『立町キャンパス』に代わり新しく『袋町キャンパス』開設が決定。このほど移転作業を終え、8月31日に開所式を執り行いました。新しいキャンパスは平和大通りに程近く、NHK広島の近くに位置しています。部屋は事務室、倉庫を除けば概ね3部屋が利用可能です。パーティションを取り外せば約45坪(149㎡)の大部屋と約10坪(30㎡)の小部屋で利用することも可能です。小部屋では10人前後のミーティングを行えます。



挨拶する奥田学長



テープカットで袋町キャンパス開所を祝う（左から鶴理事長、奥田学長、ビルオーナーで㈱日本パーカーライジング広島工場代表取締役社長の相馬文宣氏）

新しいサテライトでは、『立町キャンパス』と同様の公開講座や講演会などの開催を予定しています。ビルの1階から今回6階へと移動したため、通りすがりの人が中の様子を観て立ち寄るのは難しくなると考えられます。従って、広報がこれからの本サテライトの重要課題の一つとなりますが、『立町キャンパス』同様、多くの市民に親しまれるサテライトとして利用されることを期待します。

広島国際学院大学 袋町キャンパス
 広島市中区大手町2丁目8-4
 パークサイドビル6F(広電袋町電停前)
 TEL 082-236-3196 FAX 082-236-3197

★ 今後の主な
 行事予定
 (赤字は公開行事です)

大学・短大 **高城祭** (10/23~24) 推薦入試 (大11/9 短1期11/6 2期12/18)
 冬期休業 (大12/24~1/6 短12/25~1/5)
 高校 **中間考査** (1・3年10/15~19 2年10/4~7) **修学旅行** (2年10/14~18)
文化祭 (11/21) **期末考査** (12/8~13) **終業式** (12/22)
始業式 (1/7)

この広報誌及び第三者認証評価結果はホームページでご覧になれます。 <http://www.hkg.ac.jp/>

高校生以上の方に図書館を開放しています。詳細は図書館までお問い合わせ下さい。TEL082-820-2536